

大学等図書館による展示

SALA加盟図書館所蔵資料展示会

■国立女性教育会館女性教育情報センター
 <日本女性に男女平等の贈りもの
 ベアテ・シロタ・ゴードンさん

関連資料ご紹介>

国立女性教育会館（NVEC）は男女共同参画社会実現の推進機関として、研修・調査研究や情報・資料の提供に取り組んでいます。館内の「女性教育情報センター」は男女共同参画及び女性・家庭・家族に関する専門図書館として、約15万冊の図書・地方行政資料の他、雑誌・新聞記事、ミニコミ誌などを所蔵しており、どなたでもご利用いただけます。

今回は、日本国憲法の草案作成に携わったベアテ・シロタ・ゴードンさん、初代館長の縫田曄子さんに関するポスター展示、所蔵資料（一部は近隣の中学生によるポップを付けたもの）の紹介、男女共同参画すごろく・SDGs さんかくしおり・所蔵資料の紹介冊子『本、あり方。』の配布を行いました。

【展示資料】

『1945年のクリスマス：日本国憲法に「男女平等」を書いた女性の自伝』ベアテ・シロタ・ゴードン著；平岡磨紀子構成・文
 柏書房 1997年

『Pink blue ピンク&ブループロジェクト』ソ・イオン文；ユン・ジョンミ写真；小山内園子訳 タバックス 2023年
 『ジェンダー・ディスカッションブック：SDGsで学ぶ!性別格差がない未来』



プラン・インターナショナル・ジャパン著
 きたがわめぐみ作 永岡書店 2023年
 合同出版 2024年 他、全12冊
 （記録：国立女性教育会館 小川晶子）

■城西大学

<身近にある薬用植物

～関連図書と薬用植物を使った小物の展示～>

今回は「身近にある薬用植物」をテーマに、本学図書館所蔵の漢方古書資料と、薬学部薬学科 生薬学研究室 北村雅史准教授、同じく病院薬剤学研究室 間祐太朗助教推薦の薬用植物に関する図書の展示を行いました。

漢方古書資料はデジタルアーカイブを公開していますが、「図書館と県民のつどい埼玉」での資料展示は2017年以来ということもあり、訪れた方々は普段目にすることのない資料に興味深くご覧になっていました。

会場でお配りした学生アドバイザー作成の身近にある薬用植物を使って作成した小物や、薬用植物園のパフレット、ポストカードなども大変好評をいただき、同園を訪れてみたいという嬉しい声も多くいただきました。

また前年に引き続き、学生アドバイザーが作成したポスターや活動内容を紹介したパネルの展示も行いました。



■女子栄養大学

＜食でつながる世界～食と栄養を通して、世界をぐるりと旅してみませんか～＞

女子栄養大学図書館では、「食でつながる世界～食と栄養を通して、世界をぐるりと旅してみませんか～」をテーマに、所蔵資料の展示を行いました。日本を含め世界 25 カ国・地域からセレクトした料理本を中心に、ムーミンやハリー・ポッターなどの「物語」に関連する料理本や、本学の専門分野である健康や栄養に関する本を展示しました。同様にデータベース「栄養と料理デジタルアーカイブス」(※)から、「世界の辛～い料理」と題したパネル展示を行い、インドとベトナムのスパイシーな料理の記事を紹介しました。

デジタルアーカイブスの詳しい使い方を聞かれる方もおられました。

※ <https://www.eiyotoryori.jp/>

また、来場者参加企画「食べてみたい世界の料理」では、ラオス、ウクライナ、メキシコの 3 つの郷土料理を紹介するパネル展示から、食べてみたい料理を選んでいただきました。

来場者からは多くの感想を頂きましたが、なかでも「食べるだけでなく、食べられない方々への考察も重要では」とのご意見が印象的でした。次回の出展テーマのヒントを頂いた様な気がいたします。



(記録：女子栄養大学図書館 矢野大介)

■聖学院大学

＜図書館 de ボードゲーム！＞

近年、ボードゲームのイベントや貸出、展示などを行う図書館が増えてきています。本館では、2016 年よりボードゲームに関する様々なイベントや展示を行ってきました。

2021 年には、図書館情報学課程の授業の中で学生が「図書館のゲーム型学習教材」を制作する際、実際に様々なボードゲームを体験するというプログラムが生まれ、図書館職員がそのサポートを行っています。また、2023 年には、ボードゲームはグループ学習のアイスブレイクや留学生の日本語学習、読書推進に有効であるということで、ボードゲームの貸出も始まりました。そのほか、一般向けイベントとして 2024 年 9 月には OKEGAWA hon プラス+で「言葉や辞書で遊ぼう」と題したボードゲーム体験会を実施しています。

こうした活動が認められ、2024 年 11 月には、本館が「ゲーミング図書館アワード 2024」の「審査員特別賞」を受賞しました。

本展示では、本館のボードゲーム活用事例の報告と図書館で貸出をしているボードゲームの展示を行いました。ボードゲームの貸出を行っている図書館はまだ多くはないので、物珍しそうにゲームのカードを手にとってご覧になる一般の方が多く見られました。また、ボードゲームの活用を考えていらっしゃる図書館職員の方からの相談も多く、本展示がボードゲーム導入の一助となり、今後、多くの図書館でボードゲームが図書館サービスとして取り入れられていくことを願っております。



■文教大学

<「ほんだな係」によるポップ展示>

「ほんだな係」は、文教大学越谷図書館で活動する学生ボランティア団体です。図書館活性化・読書推進を目的に大学生と図書館職員が協働し、おすすめ本の展示やビブリオバトル、選書ツアー、学生考案イベントなどを企画・実施しています。

2015年の発足時から現在に至るまで、たくさんのおすすめ本を展示してきました。手作りの紹介ポップは、本の魅力が伝わってくるものばかりです。今回は、そんな歴代メンバーのこだわりが詰まった紹介ポップとおすすめ本の展示を行いました。来場された方々には、幅広い種類のポップと本を楽しんでいただけたほか、掲示物や配布物を通して「ほんだな係」の活動内容を知っていただけたのではないかと思います。

他団体の取組事例や所蔵資料などにも触れることができ、学生も職員も学びの多い一日となりました。今回得た知識や情報を今後の企画立案に活かし、「ほんだな係」の活動の幅を広げていければと思っております。



(記録：文教大学越谷図書館 柏 優果)

■山村学園短期大学

<色々な絵本や保育学生の作品>

本学は、比企丘陵の鳩山町に位置し、子ども学科を置く短期大学です。周囲を広葉樹林に囲まれ、図書館の窓外には、四季折々に変化する景色が広がっています。保育士や幼稚

園教諭を養成する上で、自然に触れて「遊んで学ぶ」ことの大切さを身につける良い環境となっています。

図書館では、学科の専門書の他、特に行事や実習で利用される絵本・紙芝居を多く揃えています。また、後輩への参考のため、時折り学生の作品も紹介しています。創作絵本や木の実などで作った「空想生物標本」など楽しい作品があるので、今回は大型絵本や仕掛け絵本と共に展示しました。

また、図書館は絨毯敷きとなっており利用者は入口でスリッパに履き替えます。絵本コーナーでは大型絵本を絨毯に広げることにも出来、くつろいだ環境で読書を楽しんでいます。今回は、提案として、ティピテント（1本のポールで立ち上げるテント）を持参し、その中で絵本を読む体験もして頂きました。



(記録：山村学園短期大学図書館 品川今日子)

■国際学院埼玉短期大学

<学生図書委員会

本当に役に立った！私たちの1冊>

本学は、幼児保育学科、健康栄養学科（食物栄養専攻・調理製菓専攻）

行っています。

4月、新図書委員長・副委員長は、今年度の活動を企画します。スマホで何でも調べられる今、どうしたら学生が図書館にもっと足を運んでくれるのか。企画を持ち寄った3名が目を見せたのは、「試験や課題、実習で実際に役に立った本を集めて、図書委員会のおすすめ本棚を作る」でした。

初参加の今回、読書週間に実施した企画「本当に役に立った！私たちの1冊」を、委員長・副委員長から紹介させていただきました。本学のブースには、102名の方にお立ち寄りいただきました。誰もが知っている絵本『14ひきのシリーズ』のカバーに仕込まれたしかけや、小学生も参考になる栄養素図鑑、懐かしの給食メニューなど、本学学生ならではの選書に、図書館関係者の皆様も関心を持たれ、会話が弾みました。

また、他大学や高校図書館、出版社等の企画にも参加し、これまで知らなかった図書館の世界に刺激を受け、次年度に繋がる貴重な経験をさせていただきました。



(記録：国際学院埼玉短期大学附属図書館 谷地 英里)

■獨協大学

<ドイツとフランスのモダニズムを映す貴重書群>

獨協大学は2024年度に創立60周年を迎えました。それを記念して、獨協大学図書館と学生サポーター「BiVS (ビボス)」の協働

ではじめて出展し、活動紹介のポスター展示や、図書館所蔵の特別コレクション「ドイツ表現主義文庫」「鈴木信太郎文庫」のパネル展示を行いました。

「BiVS」は、“Bibliothek” (ドイツ語で図書館の意) Volunteer Supporter の略称で、「図書館を応援する」という意味が込められています。2015年4月に発足し、さまざまな学部・学年のメンバーが集まって、季節ごとの展示やSNSでの発信、機関誌「BiVSの本だな」の発行など、学生の視点から図書館の魅力を外部に発信する活動を行っています。

「ドイツ表現主義」は、20世紀初頭にドイツで興った芸術運動であり、バウハウスなど後世の文化・芸術にも大きな影響を及ぼしました。また、鈴木信太郎 (1895-1970) は著名なフランス文学研究者で、19世紀フランスの象徴派の詩人たちの作品を蒐集しており、ご遺族から所蔵資料の寄贈を受けました。本館ではこれらの資料を「ドイツとフランスのモダニズムを映す貴重書群」として保管しています。

当日は多数の方にブースにお立ち寄りいただき、ありがとうございました。これからも、獨協大学図書館および学生サポーター「BiVS」の活動にご注目ください。



■立正大学

＜オリジナルグッズ製作体験！＞

立正大学熊谷図書館の学生協働団体「ぶっくま(※)」を中心に、本学で利用提供している「缶バッジマシン」と「レーザーカッター」を使用し、来場者が本学オリジナルの缶バッジとしおりを製作できるイベントを実施いたしました。自分で入力した文字が板(しおり)に刻印される瞬間に興味深く観察される参加者が多く、昨年に続き幅広い年代層の方にお楽しみいただけたのではないかと思います。

一方で、本学で扱う機器等(レーザーカッター、3Dプリンター、ボードゲーム等)に対し「なぜ図書館で…？」と疑問を持たれる方も多くいらっしゃいました。アイデアの具現化には知識や技術に加えて、発想力や課題発見力、グループ活動にはコミュニケーション能力や他者理解等も必要不可欠です。図書館が提供する学びの一環として“創造的な学修空間”を設けることで、紙媒体の資料と併用するからこそ得られる実践的な学び、プロセスの提供や、経験の蓄積、各種スキルの育成等を期待しています。

※「ぶっくま」は立正大学熊谷図書館で働く学生の団体名称です。2019年度に発足し現在15名で活動中です。図書・広報・資料保存業務など多岐にわたる活動を行っています。



(記録:立正大学熊谷図書館 佐々木、吉野)

■SALA 学生協働有志団体

＜SALA 学生協働活動 2024 の映像放映＞

今年度は埼玉県大学・短期大学図書館協議会(通称SALA)の新たな試みとして、各大学の学生協働団体(学生スタッフ、ボランティア、サークル等)が連携し活動を行いました。「図書館と県民のつどい埼玉」では、各種イベントの開催告知ポスターの展示および映像(イベント実施風景)の放映を行いました。

学生協働交流会について、第1回(会場:城西大学)では価値観ゲームやグループディスカッション等、コミュニケーションを重視したプログラムを実施し、第2回(オンライン開催)では「全国大学ビブリオバトルブロック決戦」の運営説明会を実施、第3回については3月に駿河台大学にて開催予定です。

11月に開催された「全国大学ビブリオバトルブロック決戦」では各大学から有志を募り「彩の国大学生ビブリオバトル実行委員会」として事前準備から当日の運営まで行いました。12月には「2024(令和6)年度 第36回研修会」で活動報告やパネルディスカッションを行う等、取り組みの幅を広げています。来年は映像放映に加えポスターセッションや各種イベントを開催できるよう加盟館全体での連携を続けていきたいと思っています。



(記録:立正大学熊谷図書館 佐々木 綾花)